

---

# 稗田相談窓口

紀璃人

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

稗田相談窓口

### 【Nコード】

N9723T

### 【作者名】

紀璃人

### 【あらすじ】

今回はちよつと可哀そうな阿求で。

**(前書き)**

一応このなかでは早苗×阿求が成立している設定で。

どうも今日も今日とて稗田阿求です。最近は気温の寒暖が激しく、寒いやら暑いやらでなにかと面倒です。朝は寒いので暖かいお味噌汁でも飲んで温まりましようかね。

昼はなんだか暖かく眠たくなってしまいます。原稿も一段落着きましたし、少し微睡みますかね。

「阿求、聞いているのか」

「お休みなさい」

ガッツ！！

痛いじゃないですか、某慧音先生。うら若き乙女に頭突きをかますだなんて、あなたそれでも人ですか。そう言えば人じゃないんですした。

「なあ、阿求。またなにか失礼な事を考えてはいないだろうか」

「純朴少女たる私がそんな事考えうる訳がないじゃないですか」「純朴少女とはかけ離れている様に思うのは私だけなんだろうか…」

「第一なんで私が授業を受けないといけないんですか」

「それは…」

「また、相談事なんですよね」

「ああ」

彼女は言いにくいことがあるとこうして授業の様な事をしながら思考整理をするとかで、無理やり授業を受けさせられることがたまにある。だから先に要件を聞き出すことにしたのだ。と言うか散々考えてどうしようもないから相談に来てるのに、ここにきてから考えたって無駄だろうに。変に知識を持つとなんとかしようとするた

めか、はつきり言つて面倒くさい手順を踏む。そして周りを巻き込む。正直勘弁してほしい。

「で、今度はなんですか？」

「なんだその雑な対応は」

「だつて、何回目ですか」

「それは……」

どうやら彼女は同じ知識人として香霖堂の店主に興味を持ったが客として以外の接し方が分からず、私に相談にきたとか。正直、知らないです。私は眠たいです。

「なあ、阿求。どうすれば気を引けるんだ」

「私がそう言う事に疎いの知つてますよね」

「だが、早苗との事があるだろう」

「なんで知ってるんですか!？」

眠たいと言つてる場合じゃないです。なんとかしないと。

「有名な噂話だが……?」

「もとは誰ですか?ネタの流出元は?」

「知つてどうする」

「社会的に報復します」

「まあ、私は知らんよ」

あなたと言う人は……。まあ、嘘を吐いている様には見えませんが。と思いきやなんですか、そのニヤけ面は。あとでまた問いたたきましょう。

「で、どうやったんだ?」

「なにをです」

「どうやって気を引いたんだ?」

……。その時の流れみたいなのもありますし。と言うかアプロ―チを掛けてきたのは向こうですし。お互い最初から気にかけていた節はありましたし。気を引くとかそういうのはなかったと言うか……。てかそんなの言える訳がないじゃないですか。

「知らないです」

「……………」

「そんな半眼で見られても答えようがありません」

「……はぁ……」

「そんなに落胆されてもどうしようもありませんが」

「この薄情ものめ」

「薄情者はどつちですか。何回相談に乗ってなおかつ解決してきたと思っただけですか」

「それを言われると何とも言えんのだが」

「精神的に責めて自尊心をくすぐり、最後には情に訴えるとか。一体何段構えなんですか。……。仕方ないですね。」

「本当に有効かどうかは知りませんからね」

「え」

「商品の仕入れ先とか読んでる本とか気になることを聞けば良いんじゃないですか」

「阿求？」

「相談は終わりです」

「噂の元を断たなければいけませんから。いや、もう意味が無いのは知ってますが。報復です。この辱め、何としても仇討しますので忙しいんです。」

「でも先ずはさっさと部屋を出てもらいましょう。…とりあえず仕事でも始めればかえりませうかね。」

「……………」

「なんかこの人ここで考え始めましたよ。帰りませんね。……。あ、そうだ。」

「時に慧音さん」

「なんだ」

「人の色恋沙汰に手をだすなど言ったのはあなたですよ。あの時は教え子でしたが」

「そう…だったな」

「そう」と彼女は部屋を出ていった。すると入れ替わりにお手伝

いさんが入ってきて一言。

「阿求様、お客さまですよ」

なんです、忙しいんですが。と言っかなんですか、そのニヤケた顔は。

「とりあえず入りますね」

「あ、早苗」

思わず名前を呟くと「おはよ」と短く答えて隣に腰かけた。

「ねえ早苗」

「ん？」

「なんか私たちの事がみんなにはれてるみたいなんだけど」

「え？言っちゃ駄目だった？」

……。その反応が示す答えは一つ。

情報流出の犯人は早苗でした。

どこにこのモヤモヤをぶつけろって言っの…？

Fin

(後書き)

すいませんでした。

作者は慧音は恋愛よりも生徒の方が大事とか思ってたそうなイメージがあるのですこし苦労しました。こんなのでよかったのか…？



## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能<sup>たんのう</sup>してください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n9723t/>

---

稗田相談窓口

2011年10月9日04時54分発行